

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
 発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

○実った歴史的瞬間

平成30年5月14日の定期総会で会則改正が全会一致で承認された。主な改正点は、二つの入会条件である。その一つは、これからの会員資格を現職校長に「準会員」という名称を付与し、定年退職後から速やかに会員となるよう改正したことである。つまり、長く続いた「希望制」という入会条件を廃し、将来を見据え「全員加入制」に改変したのである。二つに、入会に当たっては、最後の勤務地か、今、お住まいの地域か、いずれかの支部に入会できる「選択制」を導入したことである。ここに



東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

歴史を反芻し「新しい会則」に光を

―再興の哲学をもって―

至るまで、これ以上の妙案や窮策は見当たらなかった。もちろん、徒勞とならないよう二三〇〇名ともいわれる未加入者への入会促進の活動は今後も続く。さて、総会時の参加者の空気は不思議と冷静さが漂う歴史的決断の日となった。「最高の予言者は過去なり」とバイロンは言った。この危機を救うには、歴史を反芻し組織という制度の強制力に待つばかりではないのである。

○今、なぜ改正なのか

ここで基本的考え方を述べる。まず、長きに渡る入会率11%、27%という低迷の現実を直視したい。毎年、多くの支部長から「入会勧誘の案内

状を出しても1、2%しか返事がないよ？」との呟きが本部に届く。また、超高齢化の進展で我が組織の自然減も毎年三〇〇名近い。このまま「希望制」を続けるなら、間違いなく数年で会員数は激減し、あつと言う間に42支部は半減、統廃合も加速され組織の存続さえ危ぶまれる。この「まさか」の現実が会則改正の決め手となった。我々は個人の力の及ばないエネルギーが組織に働いていることを自覚し、新しい会則からダイナミズムな発露を見出す以外に道はない。今となつては、これまで何故、「希望制」だったのかを知る由

もない。参考までに、全国府県の退職校長会の多くは、退職者の「全員加入」が当たり前と聞く。本会がやつとたどり着いた「全員加入」への道筋。この機に東京都退職校長会は、「他に譲れない固有の人格を持つ組織である」ことを再認識し、「何が変わり、何が変わらないのか」、「誰のための組織か」を深く考え、現職校長全員を迎え入れる「再興の哲学」を共有することが重要と考える。そのためには、いままでの「希望制」というマインド（固定観念）を捨てる決意から出発したい。

○危機意識が共有できるか

組織の死活問題にメスを入れたこ

の度の会則改正は、将来を展望した本会の「組織再生の大改革」と捉えたい。その発布は平成31年1月1日からと約束され、新たに組織の大胆な再編も行われる予定である。戸惑いと不安はあるものの、新しい方向に舵が切られた。まさに、「本会の存在意義を高める意識改革」であり、最大の課題は各支部間で危機意識を共有できるかにあると考える。後戻りは愚行である。直ちに、新しい会則の定着に向け、本部にプロジェクトチームを発足させ、この急迫を乗り越える決意である。起死回生の鍵は、豊かな時を創造する二九五〇名の会員の理解と結束と行動力にある。

主な記事

- | | |
|---------------|---------------------|
| P1 巻頭言 会長挨拶 | P9 春の叙勲・高齡者叙勲受章会員 |
| P2 第65回定期総会報告 | 湯島の動静 |
| P4 長寿会員一覧 | P10 第1回会員研修会 |
| P5 功労会員・本部役員 | P11 第3回教育フォーラム |
| 支部長・顧問・参与 | 東京2018 |
| P6 平成29年度決算書 | P13 トピックス |
| P7 平成30年度事業計画 | P14 支部だより |
| P8 平成30年度予算書 | P16 物故者、応募コーナー、編集後記 |

第六十五回総会報告

期日 平成30年5月14日
会場 東京ガーデンパレス

第六十五回定期総会が盛会のうちに終了することが出来ました。

司会 宇津木順一 副会長

二 国歌斉唱
指揮 宮下 洋
(武蔵野・三鷹)

三 綱領唱和
物故会員に黙祷

五 多田丈夫会長挨拶(要旨)
本日、東京都退職校長会第65回定期総会を開催しましたところ、お忙しい中、東京都教育委員会教育監増測達夫様をはじめ、多数のご来賓の方々にご出席いただき誠に有難うございます。皆様には日頃から本会の諸事業にご指導・ご支援いただき厚く御礼申し上げます。また、春と秋の叙勲の榮譽に輝いた先生方や米寿・喜寿を迎えられた先生方、誠にめでとうございます。どうか、これからもお元気で趣味はもろろん、生き甲斐つくり力に力を尽くされることをご期待申し上げます。



とをこ期待申し上げます。

さて、遡ること2月。氷雪の中で平昌オリンピックに興奮いたしました。史上最多の13個のメダルをとった日本勢の活躍がひとときわ輝きました。完璧な演技を披露したフィギュアスケート男子の羽生結弦(ゆづる)選手は(本場に右足が頑張ってくれた、自分の人生史上、一番幸せな瞬間)と涙しました。ノルディックスキージャンプ女子の高梨沙羅選手は(この四年間悔しさをばねにしてきたが、自分は金メダルをとるような器ではないことが分かった)と殊勝な言葉を残しています。スピードスケート女子500メートルで期待通りの金メダルだった小平奈緒選手は(多くの種目を見ていて、メダルに届かなくてもみんなの色で咲き乱れてくれた)と日本選手団の主将らしい言葉を残したのです。スキージャンプ界のレジェンド葛西紀明選手は(四年後の北京五輪には絶対に出ます)と語りました。多くの選手が底知れぬ努力を重ねたにもかかわらず、どの選手も偉ぶらずに人への感謝が伝わりました。これらの言葉から忘れかけていた日本人の美徳を感じ、戦い抜いた選手の言葉から我々は勇氣と力を貰いました。二年後の東京五輪が待たれます。

一方、本部は今年も多忙を極めます。会則改正への着実な取り組み、第三回教育フォーラム東京・二〇一八の開催、都教委との委託事

業の着実な実施、10年に一度開催される関東甲信越退職校長会連絡協議会東京大会への準備等々に力を注ぎます。特に、この度提案する会則改正案は、本会が発足以来続けてきた退職者を対象にした「希望による入会条件」から本会の会員資格を現職校長に付与しながら「全員加入」に改変し、組織の衰退に歯止めをかける抜本改革であります。ある支部長さんは、会員の激減に対し「現状ではどうしようもない崖っぷちに立っている」と訴えておりました。我々はこの新たな提案に多くの時間を費やしてまいりました。従来の慣行から脱皮し、会員一人一人のマインド(固定観念)に変化を求める大きな土台作りでもあります。この会則改正に向けて、本部と支部とが一体となり、足並みを揃えて、新たな目標に向かうことを強く切望します。

また、今年の教育フォーラムは、新学習指導要領の改訂が進行する中で、東京都の取り組みの今を学び合える場を設定いたしました。この機会に東京都教育庁の幹部の方々や各校種の幹部の先生方をお招きし「将来を担う東京の子供たちをどう育むか」―新学習指導要領の本格実施に向けて考える―をテーマにフォーラムを開催いたします。この企画にご快諾いただいた関係者の皆様に御礼申し上げますと共に、実り多い時間にしたと考えております。

おわりに、本年も会員の皆様がよく仲間と共に豊かな時を持ちつつ、自分らしく生きることを期待しております。本部はこれからも存在感あ

る退職校長会として歩み続けます。今後ともご参会の皆様方の一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますと共に、皆様の益々のご健勝を心から祈念し、はなはだ措辞ではございますが、総会の挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

六 来賓祝辞(要旨)
・東京都教育庁

教育監 増測 達夫 様
東京都退職校長会の皆様には、これまで東京都教育委員会の様々な施策に御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げますとともに、皆様が子供たちの健やかな成長を願い、長きにわたり、様々な教育支援活動を展開されていることに対し、心より敬意を表します。

都教育委員会は「東京都教育ビジョン」に基づき、社会全体で子供への「知」「徳」「体」を育み、自ら学び考え行動する力や、社会に貢献する力を培う教育を進めております。そして、新学習指導要領の確実な実施に向けた取組を進めるとともに、学校における働き方改革を進めており、教員一人一人の心身の健康保持



の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境の整備を進めています。

そのような中、学校が外部人材からの協力を得て、教育活動を一層充実できるように設置している「教育庁人材バンク」では、退職校長会の皆様にアドバイザーとして御就任いただき、普及・広報活動等についてお力添えをいただいています。また、「採用前実践的指導力養成講座」では、豊かな御経験を踏まえたきめ細かい御指導をいただいております、受講した候補者は自信をもって教員生活をスタートさせることができています。

東京都の学校教育は、毎年様々な課題に直面します。子供たちの健やかな成長のために、教育委員会と学校にはそれらの課題を解決する責務があります。私たちはその使命を強く自覚し、日々全力で職務に取り組んでまいります。

教育に対する情熱と豊かな御経験に裏付けられた高い識見を有する皆様には、東京都の教育の一層の充実に向けて、今後とも様々な形でお力添えくださいますようお願い申し上げます。

・全国連合退職校長会

会長代行 入子 祐三 様

総会おめでとうございます。

東京都の総会には必ず出席しております。戸張敦雄会長の姿がありません。計報でお知らせしました通り、三月末に急逝されましたので、会長代行の入子祐三がご挨拶に参りました。

全連退と致しましては、急遽態勢づくりを行いまして会務の推進に当たっておりますので、ご支援下さいますようお願いする次第です。

教員の働き方改革のための指導・運営体制の構築に関する緊急提言を受けて、呼びかけ協力の輪を広げたり、新学習指導要領の円滑な実施に現場の支援・協力態勢を組むことが当面の課題と考えております。

戸張会長の残任期間の会長代行としての任を懸命に努めて行かねばと思っております。

東京都退職校長会の益々の充実発展を祈念して、ご挨拶と致します。

・東京都中学校長会

会長 小澤 雅人 様

始業式、入学式をはじめとした年度当初の諸行事も終え、本格的に三十年代が動き出したところです。

新学習指導要領への移行及び準備が本格的になりました。「特別の教科道徳」や、特別支援教室による指導の実践も進んでいきます。

「活動に参加し、心を通わせ絆をつよめよう」をスローガンに、相互の親睦と交流、研修と様々な機会を通して、人生百年と云われる中で、セカンドライフの充実と活性にご尽力されていることに、心より尊敬の念を抱いております。

毎年、採用前実施研修において、多くの新規採用教員のご指導をいただき、更には各支部におけるご指導と人材の育成にも感謝申し上げます。会報も拝見させていただき、諸先輩方が活躍されている様子に、我々も頑張れる力をいただいております。

ます。

◎来賓紹介

・東京都教育庁

教育監 増渕達夫 様

・東京都教育庁人事企画担当 部長 黒田則明 様

・同 指導部管理課 課長 矢野克典 様

・同 指導部指導企画課 課長 石田 周 様

・同 指導部教育計画担当課 課長 小寺康裕 様

・同 指導部企画推進担当課 課長 中嶋富美代 様

・同 指導部義務教育指導課 課長 栗原宏成 様

・同 指導部高等学校教育指導課 課長 佐藤聖一 様

・同 指導部特別支援教育指導課 課長 丹野哲也 様

・多摩教育事務所指導課 課長 榎並隆博 様

・都教職員研修センター研修部教育開発課 課長 堀田直樹 様

・公益社団法人都教職員互助会経営企画部 部長 川名洋次 様

・同 経営企画部互助事業課 課長 檜山 正 様

・東京都国公立幼稚園・こども園長会 副会長 小澤明子 様

・東京都公立小学校長会 副会長 喜名朝博 様

・東京都中学校長会 会長 小澤雅人 様

・東京都公立高等学校長協会 事務局長 澤海富保 様

・東京都立特別支援学校校長会 会長 朝日滋也 様

・全国連合退職校長会

会長代行 入子祐三 様

・都退職公務員連盟 会長 馬場哲夫 様

・日本教育公務員弘済会東京支部 参事 清水政義 様

・(株)東京都民互助会 代表取締役社長 長末真次 様

七 新会員紹介 24名の入会者 長寿会員紹介・祝い品贈呈 米寿代表挨拶 門川公雄 様

八 喜寿代表挨拶 池谷 勇 様

九 功労会員に感謝状等贈呈 代表挨拶 和田 弘 様

十 荣誉会員紹介 議長選出 伊藤 誠一 足立支部長

十一 議長選出 重野 和夫 北多摩西部支部長

十二 議事 1 平成29年度 会務報告 2 平成29年度 決算報告 3 平成30年度 事業計画案 4 平成30年度 予算案 5 会則改正案

(改正会則は別刷にて配布) ※全ての議事は承認

十三 議長解任 報告事項 十四 会歌斉唱 指揮 宮下 洋

十五 閉会のことば (武蔵野・三鷹)

十六 総会終了後 会員研修会

◎その後、会場を移しての懇親会(会費七〇〇〇円)にはご来賓、会員約一四〇名が参加した。

祝 ご長寿

(敬称略)

百八歳	1名	郷司 賢吾 (世田谷)
百七歳	1名	岸田 勝則 (大田)
百三歳	1名	大正4年4月2日～大正5年4月1日出生 守屋 章雄 (町田)
百二歳	4名	大正5年4月2日～大正6年4月1日出生 市来 康代 (目黒) 瀬間 一成 (神奈川) 望月 英子 (神奈川) 福島 唯義 (神奈川)
百一歳	2名	大正6年4月2日～大正7年4月1日出生 木島 秀子 (武・三) 須山 道德 (神奈川)
百 歳	7名	大正7年4月2日～大正8年4月1日出生 平井 明 (杉並) 平田 泰 (杉並) 舟生 清 (杉並) 鈴木 哲朗 (葛飾) 松島 朝興 (武・三) 長田 定利 (北・中) 下田 満穂 (北・西)
白 寿	2名	大正8年4月2日～大正9年4月1日出生 廣瀬 淑子 (中野) 佐藤義太郎 (練馬)

米寿 105名 昭和5年4月2日～昭和6年4月1日出生

太田 秀 (文京)	斎藤 吉衛 (文京)	神田 次男 (台東)	松野 武男 (墨田)	中山 順子 (墨田)
森島 正義 (目黒)	中島 譲 (目黒)	和田 京子 (大田)	林 栄 (大田)	三澤 正和 (大田)
高柳 竹人 (大田)	松本 浩三 (大田)	井手 晃一 (大田)	小宮 真美 (世田谷)	山本 菊哉 (世田谷)
矢野 桂治 (世田谷)	有谷 時春 (世田谷)	厚地 大司 (世田谷)	喜多村匡男 (杉並)	安田 勝人 (杉並)
小宮 秀昭 (杉並)	主税 勇作 (北)	野口 玲子 (北)	秋山 育也 (板橋)	井出 虎雄 (板橋)
梅田 康三 (板橋)	加藤 節夫 (練馬)	馬場 信房 (練馬)	中根 博 (練馬)	南 利夫 (練馬)
橋谷田千代美 (練馬)	小山 矩子 (足立)	植松 千枝 (足立)	伊達崎純子 (葛飾)	大澤 静枝 (葛飾)
木島 和男 (江戸川)	加藤 正喜 (江戸川)	原 静雄 (八王子)	中西 靖之 (八王子)	宮沢 春好 (八王子)
亀山恵之助 (八王子)	進藤 弥重 (日南)	石井 賢司 (日南)	針谷 康信 (日南)	加藤 孝雄 (武・三)
長谷川鐵夫 (武・三)	田原 良敏 (武・三)	峯岸 和永 (武・三)	木村 博文 (北・北)	岩切 正睦 (北・北)
松本 辰雄 (北・北)	小林 文治 (北・北)	伊藤駿二郎 (北・北)	水野 稔 (北・中)	金田 可久 (北・中)
秋永 悦郎 (北・中)	木暮 和夫 (府中)	草刈 和志 (府中)	和知 光儀 (府中)	櫻庭 朔 (府中)
太田美智彦 (調布)	瀬崎 純子 (調布)	鈴木 治子 (調布)	塩練 一男 (狛江)	上山洋一郎 (北・西)
立石 昭人 (北・西)	水越 昭忠 (北・西)	野口 喜一 (西多摩)	高山 重義 (西多摩)	中村 昭平 (西多摩)
吉野 好泰 (西多摩)	上田 勝三 (西多摩)	宿谷 秀雄 (西多摩)	西野 延男 (西多摩)	森田 厚 (西多摩)
森田 豊 (西多摩)	太田 雅美 (千葉南)	清水久四郎 (千葉中)	萩浦 宥 (千葉中)	齋藤文太郎 (千葉西)
小野 眞澄 (千葉西)	淵脇 英夫 (千葉西)	大石 稔 (千葉西)	新澤 淑子 (千葉西)	中溝 忠夫 (千葉西)
林 幸成 (埼玉)	倉上 保 (埼玉)	川田 進 (埼玉)	三上 憲夫 (埼玉)	柳瀬 善晴 (神奈川)
安藏 復也 (神奈川)	上原 利視 (神奈川)	湯山 清 (神奈川)	神保 文雄 (神奈川)	常盤木壽夫 (神奈川)
佐口 孝明 (神奈川)	白石 友三 (神奈川)	佐藤 松寿 (神奈川)	森 茂 (神奈川)	井関 登晴 (神奈川)
岩島 和夫 (神奈川)	小泉 博 (神奈川)	岡野 武弘 (神奈川)	門川 公雄 (宮崎)	小杉 康裕 (栃木)

喜 寿 62名 昭和16年4月2日～昭和17年4月1日出生

居駒 洋子 (新宿)	松本喜代子 (新宿)	小原 愉里 (品川)	田郷 弘毅 (品川)	山下 康弘 (目黒)
黒谷 節子 (大田)	三橋 英一 (大田)	泉田 晃一 (大田)	長峰 春樹 (世田谷)	武田 弘 (杉並)
片桐 茂也 (杉並)	宮地 芳子 (北)	久富美智子 (北)	伊藤 きく (板橋)	小林 和子 (板橋)
坪 廣八郎 (板橋)	青木 靖 (板橋)	吉川 眞澄 (足立)	須山 弘一 (葛飾)	佐藤 旨位 (八王子)
大井 谿 (八王子)	川井 得三 (八王子)	上田 幸夫 (八王子)	成田 一代 (八王子)	松永芙貴子 (町田)
五十嵐陽一 (町田)	小堀 常子 (町田)	三辻 陽夫 (日南)	石野由紀夫 (日南)	福谷 隆子 (日南)
増田 克彦 (日南)	本間 進 (武・三)	塚本 和史 (北・北)	橋本 誠司 (府中)	三國 裕 (北・西)
池谷 勇 (北・西)	加納 竹文 (北・西)	樋口 和人 (北・西)	吉原 光博 (西多摩)	願法勇四郎 (大島)
若松 秀幸 (大島)	加瀬登茂子 (千葉南)	杉山 明 (千葉南)	戸取 菊枝 (千葉南)	外山 義郎 (千葉中)
松本 昭夫 (千葉中)	菅原 賢男 (千葉中)	土屋 千明 (千葉西)	横田 國男 (千葉西)	山崎 和彦 (千葉西)
富樫 勝榮 (千葉北)	佐々木千恵子 (千葉北)	小宮 誠 (千葉北)	村沢 紘 (埼玉)	新井 貞保 (埼玉)
高橋 哲夫 (埼玉)	三上 裕三 (埼玉)	石原ルミコ (埼玉)	木下邦太朗 (神奈川)	鈴木 努 (神奈川)
原田 順弘 (神奈川)	平島 満 (神奈川)			

お詫び 第65回総会(30年5月14日に開催)の要項の喜寿欄に、石野由紀夫様、福谷隆子様、増田克彦様(いずれも日南支部)を記載することができませんでした。誠に申し訳ありませんでした。 前福利厚生部長 守屋龍男(全体を平成30年6月27日現在で作成)

本会へのご功績を讃え感謝状を贈ります

功労会員（平成29年度以降の退任役員等）15名（敬称略）

副会長

和田 弘（練馬）

評議員

岡村 茂（文京）

梅田 庸夫（世田谷）

小林 照夫（中野）

上辻 敏雄（日南）

高橋 泰介（埼玉）

安藤 正明（神奈川）

支部長

清水 健（板橋）

渡辺 和則（八王子）

楠本善之助（北多摩北）

桐谷 澄男（千葉南）

理事

会計部

波岡 輝夫（埼玉）

会報部

八重樫正男（新宿）

福利厚生部

松村由紀子（目黒）

クラブ委員長

立谷 博美（練馬）

清水 健（板橋）

波岡 輝夫（埼玉）

八重樫正男（新宿）

松村由紀子（目黒）

立谷 博美（練馬）

平成30年度 本部役員

会長

多田 丈夫（八王子）

副会長

中岡 啓子（足立）

福利厚生部担当

宇津木順一（西多摩）

総務部担当

苗村 崇伶（江東）

会報部担当

小久保正己（埼玉）

会計部担当 会計部長兼任

桑原 利夫（江東）

企画調整部担当

藤崎 武利（千葉南）

生涯学習部担当

総務部長

林 和明（世田谷）

会報部長

梅津 通郎（武蔵野・三鷹）

福利厚生部長

増田 稔（西多摩）

生涯学習部長

齋藤 徳蔵（千葉西）

企画調政部長

伊地 敦子（北多摩北）

事務局長

三辻 陽夫（日南）

監事

大南 英明（千葉西）

今井 重夫（神奈川）

藤井千恵子（埼玉）

支部長

千代田・中央

港

新文台

墨江品目大世

田

中杉

豊

岩谷 榮子

野々山 毅

廣澤 義博

小林 秀夫

老川 和子

小菅 俊一郎

森 信夫

高橋 毅

高橋 規矩男

小田部 由衛

小林 良子

緒方 茂

井口 清

野村

北

荒板 練足

葛 戸王

江 八町

日 武蔵野・三鷹

北 多摩

北 多摩

府 調

川 橋馬立

飾 川子

田 南

鷹 北

中 中

布

大崎美代子

戸叶 恒夫

小林 和子

内匠 英夫

伊藤 誠一

佐藤 晴雄

奥村 信吾

榛葉 邦男

沖倉 啓壽

馬場 武

本郷 浩之

阿久津 美男

鎌田 敏雄

広瀬 忠雄

渡邊 孝

狛 北

多 多

宅 葉

葉 葉

葉 葉

奈

神

江西 摩島

鈴木 村野

浅沼 渡辺

菅谷 廉

藤木 永

嶋 清

安 藤

正勝 一徳

久子 充洋

弘 助

三 五

達 夫

正 明

顧問

太田 秀（文京）

片岡 敦子（北多摩北）

参 与

相田新太郎（練馬）

滝澤 利夫（埼玉）

大木 英雄（千葉南）

白石 裕一（武蔵野・三鷹）

武藤 昇（板橋）

田野倉訓郎（西多摩）

小林 由衛（世田谷）

藤井 誠一（埼玉）

林 忠義（墨田）

黒田 貞夫（埼玉）

安達 勉（狛江）

和田 弘（練馬）

平成 29 年度 東京都退職校長会 一般会計決算書

1 収入総額 11,185,738 円 2 支出総額 10,653,519 円 3 差引残額 532,219 円

単位=円 △収入は予算より減、支出は予算より増

収 入 の 部					
款	項 目	29 年度予算額	29 年度決算額	増 減	摘 要
年 度 会 費		7,763,000	7,211,500	△ 551,500	2,500 円× 2,854 名・1,300 円× 5 名 計 2,859 名+前年度 28 名分
繰 越 金		65,889	65,889	0	
雑 収 入		500,000	1,148,349	648,349	利子、祝金、広告掲載料等
積 立 基 本 金		2,300,000	2,760,000	460,000	特別会計積立基本金より
合 計		10,628,889	11,185,738	556,849	
支 出 の 部					
款	項 目	29 年度予算額	29 年度決算額	増 減	摘 要
会 議 費		520,000	484,784	35,216	
	総 会 費	450,000	433,961	16,039	総会に関する諸費(会議費、記念品費、発送費等)
	役 員 会 費	50,000	50,823	△ 823	都公立一覽・監査会・五団体懇・全連退懇・理事会茶代等
	部 会 費	10,000	0	10,000	各部の会合・資料・印刷・通信費等
	各種委員会費	10,000	0	10,000	各種委員会資料印刷・通信費等
事 業 費		3,785,000	3,543,454	241,546	
	会員名簿発行費	30,000	0	30,000	会員名簿作成・発送費・通信費等
	会 報 発 行 費	1,200,000	986,406	213,594	会報 196 ～ 199 号印刷・発送費等
	生涯学習費	60,000	73,758	△ 13,758	会員研修会会場費・講師謝金等
	慶 弔 費	850,000	640,000	210,000	香料
	渉 外 費	30,000	57,980	△ 27,980	他機関との交渉・連絡費・懇談会会場費等
	クラブ補助費	100,000	99,620	380	クラブ事業の助成費等
	教育支援費	50,000	50,000	0	研修会諸経費等
	会員増強費	30,000	48,316	△ 18,316	新会員入会に関する通信費等
	H P 運 営 費	270,000	290,364	△ 20,364	H P 維持費等
	支部活動助成費	950,000	1,117,010	△ 167,010	支部助成・県支部助成・振替料等
	支部活動祝金	200,000	180,000	20,000	支部総会・周年行事等の祝金等
	島嶼活動助成	15,000	0	15,000	支部長会交通費一部負担
事 務 費		3,480,000	3,792,222	△ 312,222	
	事務用品費	90,000	146,758	△ 56,758	事務用品・消耗品等
	備 品 費	10,000	24,216	△ 14,216	事務機器等
	事務員行動費	1,080,000	990,000	90,000	本部事務局員行動費、資料作成費等
	事務所費	1,500,000	1,923,380	△ 423,380	事務所借料・光熱費・電話料等
	印 刷 費	90,000	112,507	△ 22,507	資料文書等印刷費、コピー代・印刷機保守契約費用等
	コ ピ ー 機 費	620,000	499,284	120,716	コピー機、印刷機・リース代等
	通 信 費	90,000	96,077	△ 6,077	事務局の通信連絡用諸費
交 通 費		1,400,000	1,568,950	△ 168,950	役員会・部会・事務局等の交通実費等
全連退 分担金		1,244,000	1,164,000	80,000	会費 400 円× 2,910 名
運営資金積立金		30,000	30,000	0	周年記念事業積立
会員名簿積立金		20,000	20,000	0	会員名簿発行積立
諸 費		60,000	50,109	9,891	関プロ大会参加費等(新潟県)
雑 費		24,000	0	24,000	諸雑費
予 備 費		65,889	0	65,889	予備費
合 計		10,628,889	10,653,519	△ 24,630	

平成 29 年度 特別会計 決算書

1. 運営資金積立金 ③			
収 入		支 出	
運営資金積立金	1,735,823		
本年度積立金	30,000		
利息	14		
計	1,765,837	計	0
		次年度繰越金	1,765,837

2. 会員名簿積立金 ④			
収 入		支 出	
会員名簿積立金	1,047,517	名簿	773,604
本年度積立金	20,000	配送料	61,246
利息	7		
計	1,067,524	計	834,850
		次年度繰越金	232,674

3. 積立基本金 ②			
収 入		支 出	
前年度繰越金	29,123,627	一般会計へ	2,300,000
寄付金(都民互助会)	1,328,750	一般会計へ	460,000
利息	3,054		
計	30,455,431	計	2,760,000
		次年度繰越金	27,695,431

平成30年4月1日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

会計部長(副会長兼任) 小久保 正

諸帳簿、証書等、関係資料と対照監査したところ、適正且つ正確に処理されていることを確認しました。

平成30年4月11日

監事・氏名・印




平成 30 年度 事業計画

1. 活動方針

本年度は、新たに生まれる会則改正の周知に力を注ぎながら、本会の存在感を一層高める年と位置付ける。まずは、現職校長会との具体的な連携を深め、本部と支部の組織力と結束力で飛躍的な会員増強の実感できる環境づくりに努める。本部は、4年目のスローガンに、「Have a Lovely Time」－豊かな時を持とう－を掲げ、高齢化社会の動きにも注視しながら、会員が豊かで心地よい生き方のできる第二の居場所づくりの運営と発展に貢献する。そのために、次の3つの具体的方針を掲げる。

- (1) 本部と支部が一体となって、新たな会則の周知と定着を目指すと共に、将来の仲間である各校種の現職校長会との連携を強め、存在感ある退職校長会の確立を目指す。
- (2) 10年に一度の関東甲信越地区退職校長会連絡協議会東京大会を成功させ、歴史と伝統ある本会を改めて自覚し、将来への組織の在り方について展望する機会とする。
- (3) 各事業の透明性を堅持し、各支部活動の一層の充実・発展を求めると共に、東京都教育委員会との委託事業の促進を図り各関係諸団体との一層の連携強化に努める。

2. スローガン「Have a Lovely Time」－豊かな時を持とう－

3. 活動の重点

- 会則改正に伴い、新たな入会条件に適った加入環境を整え、入会促進に努力する。
- 各種会議、委員会活動の組織的・効果的な運営を図り、責任ある体制づくりに努める。
- 健全財政を目標に、各事業の見直しをすると共に、予算の効果的で適正な執行に努める。
- 会員の親睦と互助に寄与すると共に、生涯学習の場と健康づくりの拡充に努める。
- 会報やHPを通じて、会員の情報を的確に共有し、絆を強める努力をする。
- 都教育庁委託事業を受け入れ、会員の豊かな経験を活かし、その期待に応える。
- 関係諸機関・諸団体との連携を図り、本会の充実と発展に努める。

4. 各部・委員会の目標・事業計画

(1) 総務部

- 本会の綱領や活動方針を踏まえ、各部、各組織間の連絡、調整等に当たるとともに、円滑な会務運営に努める。
- 総会、評議員会、支部長会等の企画運営に当たる。また、教育フォーラムの企画運営に関する連絡・調整を担当する。
- 全連退関係の調査の把握を行うとともに、関プロ東京大会の企画・運営・調整に努める。
- 42支部の情報収集に努め、本会の諸課題に関する連絡・調整に努める。
- 会員増強に関する業務を担当し、会員名簿の発行及び退職予定者、退職者で未加入者の情報を的確に提供し、入会促進に努める。
- 業務改善・基金検討委員会の「答申」から会則改正について、包括的な把握に努め、作業部会を支援する。

(2) 会計部

- 新年度予算は、「予算編成の基本原則」に則し、編成をする。
- 各部、各委員会等と連携を図り、諸活動、諸事業の円滑な運営ができるよう配慮する。
- 会員減少に伴う収入減により、予算の編成、執行を適正にし、極力支出の抑制に努める。

(3) 会報部

- 平成27年度に示した「会報誌発行の基本原則」に沿って、年4回の会報を発行する。
- 本会の活動状況と的確な支部会員の情報を把握し、「分かりやすい、より魅力のある会報誌」を目指す。
- 会報等の編集及び校正作業を行い、編集全般の責任を負う。発行に当たっては、正副会長及び事務局長と緊密な連携を図る。
- 各都道府県及び支部からの会報・情報誌の管理・保管に努めると共に、有用な教育情報を本会の会議に提供する。

(4) 福利厚生部

- 叙勲、米寿等の長寿者に関する支部情報の的確な把握に努め、情報の収集、整理、提供に資すると共に慶祝する任を負う。
- 別に定める「慶祝等に関する内規」に沿って、会員の慶弔に関する事務を処理する。
- 毎年10月に実施される「東京都教職員物故者追悼式」での「追悼の言葉」の遺族代表候補者を7月上旬までに選定し（東京都教職員互助会）に推挙する。
- 各支部との連携を密に、長寿会員、功労会員、栄誉会員の正確な把握に努め、総会時の名簿に掲載する。
- 新年会及び総会後に実施される懇親会を企画、運営する。
- 年金、高齢者医療、介護等の情報提供に努める。

(5) 生涯学習部

- 各支部の生涯学習活動に関する情報収集に努め、年2回の魅力ある会員研修会を企画、運営する。
- 年2回のクラブ委員長会を運営し、活動状況、クラブ会員の把握に努め、各クラブ活動の活性化を図る。
- 居住する地域等で活躍する会員の情報を集め、会報等への掲載に尽力する。

(6) 企画調整部

- 会長の意を体し、東京都教育委員会との委託事業が円滑に推進するよう、関係の委員会への連絡調整を行う。
- 各部で実施する事業の具体的な内容の把握に努め、調整を行う。
- 各部が提案する資料の把握に努め、諸会合が円滑にいくよう調整する。
- 東京都教育委員会幹部との懇談会の企画・運営・調整を行う。
- 五団体との教育懇談会の企画立案・運営を行う。

(7) 委員会関係

①業務改善・基金検討委員会作業部会

- 会則改正案を評議員会、総会へ提出し、審議決定を図る。
- 業務改善・基金検討委員会の答申を踏まえて、内規（規程）を検討し、改正案を提出する。

②第47回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会「東京大会」実行委員会

- 関東甲信越1都9県の退職校長会連絡協議会「東京大会」の開催地として、会則により、本委員会が委員長を中心に企画・運営の任に当たる。
- 都退職校長会として、大会テーマ「絆を深め、伸びゆく退職校長会を目指して－生きがいづくりに貢献する事業の推進－」に基づき、本部と各支部の連携・協力の下、準備に当たる。

平成 30 年度 東京都退職校長会 一般会計 予算書

1 収入総額 10,595,219 円 2 支出総額 10,595,219 円 3 差引残額 0 円

単位＝円 △ 29 年度より減

収入の部		30 年度予算額	29 年度予算額	増 減	摘 要
款	項 目				
年 度 会 費		7,363,000	7,763,000	△ 400,000	2,500 円× 2,940 名・1,300 円× 10 名 (計 2,950 名)
繰 越 金		532,219	65,889	466,330	前年度よりの繰越金
雑 収 入		700,000	500,000	200,000	利子、祝金、広告掲載料等
積 立 基 本 金		2,000,000	2,300,000	△ 300,000	特別会計積立基本金より
合	計	10,595,219	10,628,889	△ 33,670	

支出の部		30 年度予算額	29 年度予算額	増 減	摘 要
款	項 目				
会 議 費		520,000	520,000	0	
	総 会 費	450,000	450,000	0	総会に関する諸費(会場費、記念品費、発送費等)
	役 員 会 費	50,000	50,000	0	都公立一覽・監査会・五団体懇・全連退懇・理事会茶代等
	部 会 費	10,000	10,000	0	各部の会合・資料・印刷・通信費
	各種委員会費	10,000	10,000	0	各種委員会資料作成・通信費等
事 業 費		3,445,000	3,785,000	△ 340,000	
	会員名簿発行費	20,000	30,000	△ 10,000	会員名簿作成、発送費等
	会 報 発 行 費	950,000	1,200,000	△ 250,000	会報 200 号～203 号印刷・発送費等
	生涯学習費	60,000	60,000	0	会員研修会会場費・講師謝金等
	慶 弔 費	750,000	850,000	△ 100,000	香料
	渉 外 費	50,000	30,000	20,000	他機関との交渉、現職校長会連絡費、懇談 会会場費等
	クラブ補助費	80,000	100,000	△ 20,000	クラブ事業の助成費
	教育支援費	50,000	50,000	0	研修会諸経費等
	会員増強費	50,000	30,000	20,000	新会員入会に関する通信費等
	H P 運 営 費	270,000	270,000	0	H P 維持費等
	支部活動助成費	950,000	950,000	0	支部助成、県支部助成、振替料等
	支部活動祝金	200,000	200,000	0	支部総会・周年行事等の祝金
	島嶼活動助成	15,000	15,000	0	支部長会交通費一部負担
事 務 費		3,760,000	3,480,000	280,000	
	事務用品費	90,000	90,000	0	事務用品、消耗品等
	備 品 費	10,000	10,000	0	事務機器等
	事務員行動費	1,080,000	1,080,000	0	本部事務局員行動費、事務補助員行動費等
	事 務 所 費	1,900,000	1,500,000	400,000	事務所借料、光熱費電話代等
	印 刷 費	90,000	90,000	0	資料文書等印刷費、コピー代、印刷機保 守契約費等
	コ ピ ー 機 費	500,000	620,000	△ 120,000	コピー機・印刷機リース代等
	通 信 費	90,000	90,000	0	事務局の通信連絡用諸費
交 通 費		1,400,000	1,400,000	0	役員会・部会・事務局等の交通実費等
全連退 分担金		1,180,000	1,244,000	△ 64,000	全連退会費 2,950 名
運営資金積立金		20,000	30,000	△ 10,000	周年事業積立
会員名簿積立金		10,000	20,000	△ 10,000	会員名簿発行積立
諸 費		240,000	60,000	180,000	全連退関プロ大会費等
雑 費		10,000	24,000	△ 14,000	諸雑費
予 備 費		10,219	65,889	△ 55,670	予備費
合	計	10,595,219	10,628,889	△ 33,670	

平成 30 年度 特別会計 予算書

1 運営資金積立金			
収 入		支 出	
繰越金	1,765,837		
一般会計より繰入	20,000		
利息	100	計	0
計	1,785,937	次年度繰越	1,785,937

2 会員名簿積立金			
収 入		支 出	
繰越金	232,674		
一般会計より繰入	10,000		
利息	100	計	0
計	242,774	次年度繰越	242,774

3 積立基本金			
収 入		支 出	
繰越金	27,695,431	一般会計へ	2,000,000
都民互助会寄付金	1,500,000		
利息	4,000	計	2,000,000
計	29,199,431	次年度繰越	27,199,431

平成 30 年 4 月 1 日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

春の叙勲受章会員

(敬称略)

瑞宝小綬章 3名
 田原 良敏 (武蔵野・三鷹)
 石崎 章生 (北多摩北)
 能智 功 (八王子)
 瑞宝双光章 9名
 新井 利子 (江 東)
 峰谷 義雄 (世田谷)
 野口 玲子 (北)

楠 元尾 (町 田)
 楠本善之助 (北多摩北)
 亀田 宏 (西多摩)
 進藤 猛 (千葉西)
 荻谷 順子 (埼 玉)
 岩木 晃範 (神奈川)

高齢者叙勲受章会員

(平成30年
6月27日現在
敬称略)

瑞宝双光章 17名
 重田 大和 (文京)
 渡辺 幸次 (品川)
 酒井 武雄 (北 並)
 立川 慎三 (杉 馬)
 中原 忠夫 (練馬)
 中宮 王夫 (練馬)
 山北 芳子 (八町)
 岡端 子 (王 田)

澤林 大 (川 野)
 大小 中 (光 島)
 古川 加藤 (須崎)
 上野 直 (憲 夫)

子一 (調 布)
 俊耕 (調 布)
 一新 (西 多)
 夫一 (西 多)
 二人 (西 多)
 保夫 (西 多)
 憲夫 (西 多)

湯島の動静

5月

13 正副会長会

14 第65回定期総会

ク 第1回会員研修会

15 会場(ガーデンパレス)

16 関ブロ準備委員会

17 会報部会

22 会計部会

23 企画調整部会

28 正副会長会

29 第1回教育フォーラム

29 会場(ガーデンパレス)

1 第1回外部人材活用連絡会

1 会場(研修センター)

5 福利厚生部会

8 《短歌クラブ》

11 総務部会

12 企画調整部会

13 企画委員会

14 関ブロ協力者会議

18 【理事総会】

7月

3 福利厚生部会

4 会報部会

10 企画調整部会

11 会報部会

13 生涯学習部会

13 《短歌クラブ》

16 《海の日》

17 会計部会

18 総務部会

23 企画委員会

24 支部長会

29 関ブロ準備委員会

29 第1回人材バンク登録者講習会

29 会場(研修センター)

8月

1 福利厚生部会

7 企画委員会

8 生涯学習部会

9 《夏季休業(19まで)》

新登場



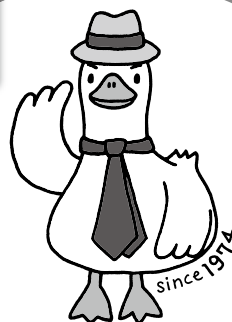
がんを含む
病気や
ケガの
備えに

ちゃんと応える
医療保険
EVER

No.1

アフラックは
がん保険・医療保険
契約件数 No.1
平成28年版(インシュアランス生命保険統計号)

●契約年齢●
0歳～
満85歳
まで



心配な
「がん」の
備えに

新 生きるための
がん保険 Days

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております)

◎商品およびサービスの詳細は「契約概要」等をご覧ください。

三泉トラスト保険サービス株式会社

☎ 0120-357-212

FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

(引受保険会社)

「生きる」を創る。

Aflac

アフラック

東京第一法人営業部

〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル19階

Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広宣課-2017-0005-1705004 1月16日

平成三十年度 第一回会員研修会

生涯学習部

○期日

平成三十年五月十四日(月)

○会場

東京ガーデンパレス

○演題

「生き生き人生」

元氣の出る集い」

『生きる喜びを』

実践し合う中で』

○講師

早稲田大学演劇博物館解説員

中野支部長

緒方 良子 先生

司会

東京都退職校長会

生涯学習部副部長

田中 弘志

一 開会の言葉

生涯学習部長 齊藤徳蔵

二 会長挨拶

多田丈夫

講師の緒方良子先生について、中野支部長であり、かつ、早稲田大学演劇博物館解説員として活躍されているなどについてご紹介があった。

三 講演

自己紹介に続いて、博物館について話をする機会をいただきたいことに感謝の気持ちを述べられた。そして、博物館について「博物館は人間の本性(本能)、特に収集本能に深く根を下ろしている。」としてお話を始められた。

◆ 日本における博物館の機能の変遷

① 物を集めて保存する社寺

(飛鳥・奈良時代)

日本における博物館の変遷を見ると、飛鳥・奈良時代には仏教の伝来に伴って、仏像を安置するとともに美術工芸品を並べて鑑賞する所もできてきた。法隆寺仏殿に収集された彫刻や絵画等に日本の博物館の起源を見ることが出来る。

平安時代になると、寺社に宝物館が付設されるようになり、そこに伝統芸術や外来の美術品が飾られた。奈良の正倉院は独立した宝物館として日本最古であり、現在の美術館の萌芽といえる。

② 市民の奉納品を公開する
絵馬堂
(藤原時代)

社寺には宝物殿のほかに絵馬堂があり、現在に至っている。

③ 飾って見せる床の間博物館

(鎌倉時代から)

鎌倉時代になると、床の間を付けた建築様式が開発され、仏像や仏画が安置された。それが次第に美麗な工芸品や花鳥風月の絵画や軸物に変わっていった。

④ 殖産興業と物産館

(明治初期)

明治になり、富国強兵が国是とされ、知識を世界に求める運動が進められた。一八六二年(文久元年)ロンドンで開催された第四回万国博覧会には幕府から遣欧使節団が派遣され、パリで開催された第五回万国博覧会(一八六七年)には日本も初参加した。この一行に参加した田中芳男は約二百点の資料を持ち帰った。田中はこの持ち帰った資料と明治政府物産局の収集資料を合わせて、日本で最初の博覧会を開催した。田中はさらに常設の博物館創設を企画し、湯島の聖堂を陳列所と定め、初め



て「博物館」という言葉が浮上した。

⑤ 国威宣揚と博物館

(明治初期～中期)

明治時代になって国威宣揚が進められる中、博物館は農商務省の管轄下に置かれていた。一時、文部省に移管されたが、一八八六年、物産館は宮内省に移された。「富国強兵」政策を国の方針とする中で、物産館は国威宣揚の方向に向けられた。

⑥ 教育を目的とした博物館

(明治初期～中期)

国威宣揚の一方で、殖産興業振興を目的として、農業博物館(明治二十四年、伊勢神宮)、通信博物館(明治二十五年、東京)特許陳列館(明治三十八年、特許局)等が次々に建設された。その中であって、明治政府は教育振興には特に力を入れ、一八七七年には「教育博物館」が誕生した。その先駆けとなったのが大成博物館で、明治八年に「東京博物館」と改名し、明治一〇年には「教育博物館」、明治一四年には「東京教育博物館」と名称が変わっていった。その後も様々な変遷を経て、東京師範学校にあったものが、大正二年に独立して「東京教育博物館」となる。その後、

昭和二〇年「東京博物館」として再開され今日の「国立科学博物館」に至っている。

⑦ 関東大震災

大正一二年の関東大震災は、それまでに建設された博物館に多大な被害を与え、多くの貴重な財宝が失われた。このことは日本の伝統文化の保存の在り方を考える機会となり、博物館の再建、さらには新設が進んだ。一つの例として、早稲田大学坪内逍遙記念演劇博物館がある。大震災の日、坪内逍遙は演劇展覧会の相談会に出席していたが昼食をとろうとした時大地震が起こった。大隈会館や大講堂の土蔵は崩れ落ち、東京全域を包む煙を目の当たりにした。逍遙はこの惨事を見て、資料の個人所蔵の空しさを痛感した。同時に文化財の海外流失が進んでいる実態も深く考えさせられ、博物館設立の願望が強まった。そして逍遙は、シェークスピア全集四三巻の翻訳・逍遙選集全一五巻の印税総てを、さらに新宿の自宅を大学に寄付するなど演劇博物館建設に全力を傾注した。そして昭和一三年一〇月二七日開館となった。

※なお、この文は、講師の緒方良子さんから事前に頂いた講

演資料によりまとめました。実際のお話と異なるところがありますが、お許しいただきたい。

四 謝辞 副会長 藤崎 武利

【アンケートの結果より】

・研修の内容については「良かった」という回答がほとんどであり、お話の言葉に感銘を受けた、との声も多くあった。

・この研修会を通して、自分の人生を振り返った、これから勉強したい、豊かになりたいとの願いを持つことができた等の声があり、「生き生き人生 元氣の出る集い」のテーマにふさわしい研修であったと考えられる。

・ただ、総会の時間が大幅に超過して、講演の時間が非常に短くなってしまったことに関して厳しいご指摘をいただいた。その点に不手際のあったことを真摯に受け止め、今後の運営に生かしていきたい。

※研修会終了後、会員から次のような俳句をいただいたのでご紹介いたします。

見て学ぶ 教えて学ぶ 皐月かな
思い出を 生かす喜び 若葉風
薫風に 絆を語る 佳人かな

(生涯学習部)

将来を担う東京のこどもたちをどう育むか —新学習指導要領の本格的実施に向けて考える—

第3回教育フォーラム東京2018

去る5月29日(火)、東京ガーデンパレスを会場に標記の題をテーマとする第3回教育フォーラムが行われた。参加者も42の各支部長推薦もあつて120名余と盛会な開催となった。

総合司会の宇津木順一副会長の開会の言葉に続き、多田丈夫会長は主催者挨拶で『教育の今を真摯に学び、東京都及び地域社会の教育に寄与することに資することができるとすればこの上ない喜びと考えます』と退職校長会の姿勢を強調された。

会は基調講演とパネルディスカッションの二部構成。

○第一部 基調講演

(13:30～14:10)

演題 新学習指導要領と東京都の取組について
講師 東京都教育庁 教育監 増渕達夫先生

40分に及ぶ講演であったが紙面の関係で一部要旨の紹介となる。

・今回の改訂は子供たちが活躍

する二〇三〇年頃の社会の在り方を見据え、生きる力の理念を具現化し、学校教育を通じて育てたい姿を示している。

・社会に開かれた教育課程は今回の改訂のキーワードの一つである。よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念の共有、社会との連携及び協働が重要。

・カリキュラム・マネジメントの三つの側面として、教科等横断的な視点、教育課程の編成における一連のPDCAサイクルの確立、人的物的資源を地域の資源も含めて効果的に組み合わせることが位置付けられている。

・東京都教育ビジョンに基づいて国に先がけて様々な教育施



増渕達夫先生

策を展開している。①学力向上に向けた取組。小学校では学力担当教師の配置もある。

②世界で活躍できる人材の育成。小学校での英語専科の配置。東京都英語村（TGG）

の開設など。③社会的自立を促す教育の推進。考え、議論

する道徳の推進で導入ビデオ資料の配布。（一部を会場で

視聴）④子供たちの健全な心を育む取組。軽微ないじめも

見逃さない取組の徹底。⑤体を鍛え、健康に生活する力を

培う。⑥オリンピック・パラリンピック教育の推進。⑦教

員の資質・能力を高める。⑧質の高い教育環境の整備。高

校の改革、小中における特別支援教室の導入。

・学校における働き方改革推進プランの作成。

○第二部 パネルディスカッション

（14:20～15:45）

テーマ 「将来を担う東京の子どもたちをどう育むか」

コーディネーターは桑原利夫副会長。パネラーは四校種一園のそれぞれを代表する先生方。

桶田ゆかり先生（東京都国公

立幼稚園・こども園長会会長）、種村明頼先生（東京都公立小学校長会会長）、酒井泰先生（東京都中学校長会副会長）、上村肇先生（全国高等学校長協会事務局長）、朝日滋也先生（東京都立特別支援学校長会会長）の五氏である。

討論はコーディネーターから出された四つの課題に各々応える形で進められたが、内容的に重なる部分もあるのでここでは全体を通してコメントの要旨を一部紹介する。

〈課題〉

（一）今回の改訂で目玉となるようなポイントについて

（二）具現に向けての学校・園の取



パネラーの先生方

組、工夫や配慮点、課題など（三）カリキュラム・マネジメントの推進について

（四）系統性を大事にした教育について

〈幼稚園〉

・幼稚園、子ども園、保育園と教育内容はすべて同じものにするとはじめて明確になった。

・幼稚園は遊びを中心として学んで行く。遊びの中で社会生活とのかかわり、思考力のめ

ばえ、豊かな感性など十項目の姿がある。

・小学校との連携、教育内容の接続が大切。

・〈小学校〉

・英語学習の充実。三～四年は素地をつくる活動型として35時間、五～六年は基礎的能力

を培う教科型として『聞く・話す』に加え『読み』が入っ

てくる。時間数も70時間と増える。

・幼稚園教育を踏まえながら取り組まなくては、と認識して

いる。小・中の関係でも、それぞれの役割分担をして取り

組まなくてはいけない。

・〈中学校〉

・時数の増減はない。『主体的

対話的で深い学び』とか『新しい教科・道徳』など如何に内容を充実していくのかが大きな課題となる。

・校内研修などで学び合っているのが現状である。多様な指導法を他の教科から学び合う

のが大切と考えている。

・教科横断的な指導も全教科で意識して取り組む。

・自校の教員だけで完結するのではないという意識でやる。

〈高校〉

・学習指導要領だけではなく大学入試との関係も視野に入れて改善されないといけない。

・民法改正による成人年齢引き下げの問題。成年と未成年が

同じ教室で学ぶこと、保護者



パネラーの先生方

との連携も問題である。

・ 地方大学振興法による都内の定員増を認めない方向も問題。
〔特別支援〕

・ 通常との距離がだいぶ縮まった。例えば音楽でも文部省唱歌など共通教材が学習指導要領に位置付けられた。

・ 幼・小・中・高との壁が少くなつた。特別支援の教員も小・中・高の指導教諭の授業を見に行けるようになった。大変良いことである。

最後にコーディネーターからの何点かのまとめがあり、「学校、家庭、地域、関係諸機関等がスクラムを組んで一人一人の幼児、児童、生徒を育て上げることが大切」としめくられた。

このあと、東京都教育庁指導部指導企画課長 石田周先生からは、パネラーが各校種の取組の実状を感得させる充実した内容であった、「社会に開かれた教育課程」のはじめの一步を踏み出す非常によいテーマであった、退職校長会会員の学びの雰囲気を感じ入った、等三点にわたり温かい講評があった。

(梅津通郎)

トピックス

木村 久代

「野良猫を考える会」を立ち上げて、保護、避妊医療などを行っています。殺処分をなくす為に。今回、3回目のバザーを行い好評でした。やりたいと思うことをやって、余生をすごしていきたいと思う日々です。

櫻井 美代子

鎌田實氏によれば、1パーセントでいいからほんの少し誰かのためになることをするとオキシトニンという幸せホルモンが出て若々しく元気になるという仕事と自分のためと1パーセントの誰かのために努めます。

堀川 和夫

子供達と毎朝元気に「挨拶」をかわし、登校時の「見守り役」をやっている。子供達の「元気な声」と「輝いている眼」に「勇氣」をもらい続けている。見守りを今後も続けていきたいと念じている日々である。

(足立支部会報 7月号より)

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談

どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀

寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

ご法事、 葬儀後の お手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可(五)第3066号
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

支部だより

親睦と生涯学習の充実、
教育支援を目指した支部活動

文京支部長 小林 博

文京支部の主な活動として、総会と懇親会、区内やその周辺の見学会、新宿支部と千代田・中央支部との協働研修会、幼稚園・小中学校の研究発表会の参観、支部だよりの発行があります。

総会後の懇親会では、区長さんや区内の幼稚園、小学校、中学校の園・校長会長の先生方に出席していただいて、区政の重点施策や各園・学校の状況をお話しいただき、情報の共有や連携の強化を図っています。

見学会では、庭園や公園、博物館などを見学します。ここでは、季節の草花について、解説を聞いたり観賞したりします。また、格式のある建物や旧跡、博物館などの中に入り、拝観したり資料を閲覧したりします。

協働研修会では、新宿支部に

よる企画で、新宿歴史博物館で開催する特別展を見学します。

また、千代田・中央支部による企画で、区部周辺にある名所・旧跡の見学も兼ねて、2kmぐらいのウォーキングを行います。

私たちは、文京区教育協力研究園・校の研究発表会を参観し、最新の教育の状況を捉えるようにしています。ICTの活用、インクルーシブ教育、豊かな心の育成など、学校の課題に応じた研究がさまざまあります。

支部だより「ぶんきょう」を年に2回発行しています。これを通じて、会員への情報提供と会員相互の交流を図るようにしています。また、スナップ写真を多く掲載し、カラー刷りにして、読みやすくしています。

これからも、会員相互の親睦、生涯学習の充実、地域教育支援を図ることを目指して、これらの活動を推進していきます。

心通わせ・絆を深める支部に

大田支部長 小田部 規矩男

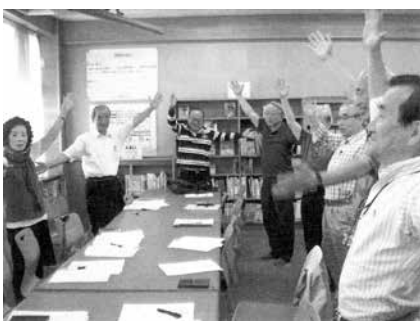
大田支部の本年度の会員数は一七六名（区内七八名、区外九八名）である。会員の減少は、本区も例外ではない。会員確保の取り組みは、急務の課題である。具体的な新会員勧誘活動のひとつとしては、年度末に退職予定校長の出席のもと、会の意義や活動内容を説明したり、現理事の率直な思いを伝えている。

教育の道を歩んできた私たちは、学校教育の発展・充実を常に願っている。そこで、年三〜四回ほど区教委の教育長や幹部、現職の小中学校長の役員の先生方との懇談会を開催し、その内容を会報などで周知するように努め、反応も得ている。公務多忙中、ご指導いただけることに深く感謝している。

同好の仲間と趣味を通して、絆を深めているクラブ活動には、歴史散歩、ゴルフ、健歩・大田街歩き、囲碁、書道、園芸があ

る。各クラブは、三〜三十名近くの参加者で構成されている。

この他会則には、旅行、釣、美術、テニスが規定されているが、現在は休部中である。また、所属クラブ員でなくてもいつでも参加できるように会報などで呼び掛けている。過日、ある先輩から「足腰は弱くなったが、参加すると元気がわく」という嬉しい声をいただいた。本会の核である総会への参加率は低い現状など、課題も多いが、先輩の声に力を得、会員の皆さんや理事の英知を結集して「心通わせ、絆を深める」支部を目指したい。※写真は、佐々木理事指導による「健康体操」



和気藹々の支部活動

北多摩中部支部長 鎌田 敏雄

北多摩中部支部は、昭和三十七年に北多摩支部が五分割されて、小金井市、小平市、東村山市、国分寺市の四地区が本支部となったものです。

当初の会員は一〇六名でしたが、その後増加して平成九年から十年には二八〇名に達しました。以後は減少して今は一〇一名となっています。

近年は新入会員が少ないために会員の高齢化が進み、現在支部会員の平均年齢は81歳を越えました。



漱石山房記念館前で

会員は少なくなりましたが、

仲間の交流を盛んにすることを心がけ、楽しい会になるよう努めています。総会後の懇親会には会員の二割余が参加しています。秋の研修会も毎年好評で、

去年は開館したばかりの「漱石山房記念館」を見学しました。そして、その後の懇親会は大いに話が弾みました。

毎年の総会出欠の返信はがきに近況・感想等一筆書いてもらって冊子にまとめ、「会員近況報告」として発行しています

が、会員の八割近くが書いてくれています。クラブ活動も盛んでしたが、

会員の高齢化のため、現在活動しているのは「製本クラブ」だけです。製本クラブは毎月二回、平日の午前か午後に西武線萩山駅近くの東村山市立萩山公民館で活動しており、他支部の方も参加を歓迎していますので、ぜひお出掛けください。お問い合わせは支部長まで。

集いを楽しむ大島支部

大島支部長 村田 公充

大島町では平成二十一年度に小学校の統廃合が完了し、以来小・中三校ずつの全六校で子供たちが学校生活を営んでいる。

これらの学校を退職し、島内在住の校長で組織される大島支部ゆえに、退職校長全員の入会が続いているが、その規模は小さく現在の会員数は十四名（再任用や非常勤講師教員として働いている校長三名を含む）である。

数は少ないが会員同士の距離は近く、お互いの生活環境や近況についての情報なども日常的に入ってくる。

そんな大島支部の活動は、春の総会及び研修会、秋の地域見学及び研修会、冬の新年会及び学校訪問の三本立てで行われている。数年前までは、総会後にグラウンドゴルフなどのレクリエーションで体を動かしたりも

したが、会員の高齢化や諸事情で今は行われていない。

春の研修会では、若い退職校長から現在の教育についての説明を聴き、秋は地域の事業所に伺いその機能を学び、冬は訪ねた学校の校長に現状を教えていただく。それぞれの会の後には、昼食を共にしながら研修会についての意見交換をしたり、世間の噂話を披露し合ったりして楽しいひと時を過ごす。これが最近数年の恒例行事である。

新学習指導要領の特徴や要点といった堅い話は、年齢差の大きなこの会ではあまり盛り上げられない。それぞれの地区でリーダー的な存在である先輩たちに各地区の「冠婚葬祭の歴史や風習」、老人会による学校との交流で得た「最近の子供たちの変容」などを具体的に話してもらった方がよほど勉強になる。今後は、退職校長会ならではの地域への貢献を探っていかれたらと思う。

(平成30年6月27日届出現在)

物故者																																																																																																																																									
謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます																																																																																																																																									
																																																																																																																																									
氏名 年月日 支部名 校種 年齢 名簿頁																																																																																																																																									
澤本 順二	30・3・29	八王子	中	91	47	安藤 精一	30・6・20	西多摩	小	90	78	西村 正憲	30・4・1	練馬	小	78	34	井口 一衛	30・4・3	豊島	中	84	23	柳村 公英	30・4・4	西多摩	小	68	80	佐野 志郎	30・4・9	調布	小	89	69	森 康夫	30・4・10	千葉中	小	71	85	市村 聡明	30・4・10	府中	小	99	69	新倉 繁夫	30・4・18	目黒	小	90	9	藤来 靖幸	30・4・20	足立	小	79	36	岡澤 禮子	30・4・21	練馬	中	89	32	柴崎 康信	30・4・25	北	小	89	24	齋藤 盛	30・4・26	武蔵野	小	82	1	成迫 政則	30・5・1	北多摩西	中	89	74	梅垣 道弘	30・5・3	日南	中	92	55	河野 道彦	30・5・7	大田	小	91	12	阪柳 光春	30・5・17	新宿	高	94	2	河野 壽忠	30・5・24	八王子	高	85	43	石井 辰彦	30・6・4	江戸川	小	89	40	桑原 輝雄	30・6・5	調布	小	92	70	主税 勇作	30・6・17	北	中	87	25	野谷 辰男	30・6・20	板橋	中	92	28	安藤 精一	30・6・20	西多摩	小	90	78



応募コーナー

短歌

萩焼きに

津和野の里に魅せられた

吾が人生の旅を刻んで

大海原白い砂浜理想郷

祖父母と訪ねた幼き思い出

人生は「和して同ぜず」旅心

嘗ての仲間 目に浮かぶ吾れ

(千葉南部支部 大久保明夫)

ようやくに 心決して 復帰する

君の笑顔に 明るさ戻りて

学校へ復帰し生徒 訪ね来る

友と語るが 一番楽しと

大寒に入りて空気のとげとげし

凍る校庭が弱き陽に輝る

(中野支部 田中弘志)

入学式わが古里の一里余の

狭い山道サクラガサイタ

朗々と音読耳朶に残りけり

僧アンドウ先生誦すがごと

爆弾はマッチ箱大で街が飛ぶ

そを開発中とうスズキ先生

(府中支部 和知光儀)

編集後記

本号を手にして「あれっ」雰
囲気が違うと感じられた会員も
多いのではないでしょうか。

インクの色が紫から黒に変
わっているのです。会員減少に
伴う予算の縮小にあるのです。

会報部会では、今まで通り年
四回発行するにはと、活発な意
見交換をしました。

総会では、会則改正案が提示
され、極めて熱心な質疑応答が
行われました。

支部や各部会、本部でも会員
を増やすにはどうしたら良いか
話し合い、活動もしています。

本号の巻頭言でも、会員を増
やすための会長の強い想いが述
べられています。

会員一人ひとりが、退職校長
会の存在意義を深く考え、身近
な仲間と話し合える機会をつ
くっていききたいものです。

教育フォーラムも第一回研修
会も、充実していると感しまし
た。

(大須賀敬子)